

大会宣言

2011年の夏、全国図画工作・美術教育研究大会 IN 北海道において、私たちは、わが国が戦後以来の大きな転換期を迎えているとし、人間が人間らしく生きていくことの大切さとともに、幼児期からの遊びや様々な体験を通して、美しいものや自然に感動する、生命を尊重するなどの「豊かな心」と、自らの生活を豊かにする「創造性」を育む造形教育の価値と重要性を訴えました。

その後、私たちを取り巻く社会はますます複雑さと先行きの不透明さを増していきました。

学習指導要領総説の解説にもあるように、今の子供たちが成人して社会で活躍する頃には、我が国は生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化し、予測が困難な時代となっていると考えられています。

そして、同解説では、このような時代の学校教育について、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められているとしています。

これらの子供の姿は、まさしく図画工作・美術を含む造形教育の中で、私たちが目指している姿に他なりません。

自らの感覚と感性を働かせながら身の回りにある様々な事象に向き合い、そのよさや特徴を感じ、自ら表したいものを考え、自分の知識や技能を生かしながら表していく。そして、友達と一緒に、互いのよさや違いを認め合い、繰り返し試しながら新たな価値を創り出していく。

私たちは、改めてこれまで目指してきた方向が正しかったことを確信するとともに、このような時代だからこそ、より一層、造形教育の価値を広め、その充実に資していきたいと考えます。

予想だにしなかった新型コロナウイルスの出現と世界的な流行は、私たち教育の世界にも甚大な影響を及ぼしました。そして、現在もその終息は見通せません。一方、未曾有の事態の中で、私たちが改めて気付いたことがあります。

それは、子供たちが教室に集まり、同じ空間にしながら、自分の思いを表し、互いの思いや考えをやりとりしながら学ぶことは、何にも代えがたい価値があること。また、子供たち同様、我々教育に携わる者たちが一同に集い、語り合い学び合うことが、どれだけ貴重なものであるかということ。人と人が心を寄せ合って高め合う当たり前の光景に、感謝と喜びを感じることなどです。

今回、大会テーマを「“わたし”を創る～今を生きる、共に生きる造形教育～」とし、再びここ北海道を起点としてオンラインによる研究大会を行います。そして、研究テーマ「この子が感じる＝考える＝表す 造形活動」のもと、今、目の前にいる「この子」一人一人に目を向け、どの子にも生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質や能力を育み、造形的な見方・考え方を更新できるようにするための授業や保育の在り方、教師の関わりについて、全国の皆様とともに考えていきます。

今大会の開催を機に、私たちは、造形教育の一層の充実を目指し研究・実践に努めることを宣言いたします。

令和3年(2021年)10月2日

第73回全国造形教育研究大会北海道大会
第70回全道造形教育研究大会札幌大会